

平成25年度予算見積調書

課室名：生徒指導課
 担当名：非行・中退防止担当
 内線：6744 (単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業	
B56	定時制高校生自立支援プログラム事業			一般会計	教育費	教育総務費	教育連絡調整費	非行防止対策費	
事業期間	平成24年度～平成27年度	根拠法令	なし			戦略項目	06 時代に応え未来を拓く人材育成		
						分野施策	020102 子どもたちの豊かな心の育成と非行防止・立ち直りの支援		
1 事業の概要 社会情勢の変化や県立高校の再編整備など、子供たちを取りまく環境の変化により、定時制高校の在籍者が増え、定時制高校における中途退学者は増加傾向にある。そのため、福祉や教育の現場で豊富な経験を積んだ方々やNPO、さらには地域の方々と学校が連携し、生徒に自立する力を身に付けさせ、中途退学を防止するとともに、ひいてはニート・フリーターの予防を図る。 (1) 外部の力を生かした中途退学防止 1,650千円 (2) 生徒を学校へ導くための環境整備 6,302千円 (3) 自立支援に係る取組の普及・啓発 77千円				5 事業説明 (1) 事業内容 ア 外部の力を生かした中途退学防止 1,650千円 地元企業や商店と連携した自立のための体験活動やNPOと連携した自立のための講座等を実施する。 イ 生徒を学校へ導くための環境整備 6,302千円 スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーをモデル校2校に配置し、生徒を取り巻く環境改善や生徒、保護者の心のケアを行う。 ウ 自立支援に係る取組の普及・啓発 77千円 中途退学防止に係る意見交換会を開催し、効果のある取組について情報共有するとともに、効果的な取組について、全県に普及する。 (2) 事業計画 ア プログラム事業推進担当教諭が、支援企業等を発掘し、協力者を募り、就労体験やボランティア活動など、生徒の自立に結びつく体験活動を企画する。 イ スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、関係機関等と連携し、個々の生徒に必要な支援を行う。 (3) 事業効果 ア 民間と連携した就労体験や、ボランティア体験などをとおして、生徒に自立する力を獲得させたり、スクールソーシャルワーカーによる福祉的支援やスクールカウンセラーによる心理的支援などにより、中途退学の防止やニート・フリーターの防止につなげる。 イ 公立高校1年生の中途退学率及び中途退学者数を減少することができる。 平成23年度：3.1%(1,071人)→平成28年度：2.7%(1,000人以下)(目標) 中途退学者数 平成20年度：4.6%(1,672人) 平成21年度：4.2%(1,508人) 平成22年度：3.4%(1,261人) (4) 県民・民間活力、職員のマンパワーの活用、他団体との連携状況 ア NPOと連携した自立のための講義や保護者講演会等を実施。 イ 地元企業と連携した就労体験活動を実施。 (5) その他 【変更事項】 高校生自立支援に係る検討会議を廃止し、自立支援に係る取組の普及・啓発として、指導主事による学校訪問及び中途退学の防止に係る意見交換会を実施する。					
2 事業主体及び負担区分 (1) (3) (県10/10) (2) (国1/3・県2/3)									
3 地方財政措置の状況 なし									
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×0.5人=4,750千円									
予算額		財 源 内 訳						一般財源	前年との対比
決定額	8,029	国庫支出金	2,100					5,929	290
前年額	7,739		2,057					5,682	